



浦添大公園

ニュースレター
うらしー
2023年12月号



公園からの お知らせ

利用者の皆様へ

Gゾーンに設置された遊具は人気のため土・日・祝日ともに来園者が多く駐車場がすぐに埋まります。近くの遊び広場前駐車場のご利用をおすすめします。

公園の自然

浦添大公園や周辺には、タテハチョウ科ジャノメ類のウスイロコノマチョウの幼虫が食べるイネ科植物が豊富に生えています。そのため、本種の数が多いです。その暮らしぶりをのぞいてみましょう。

特集・ウスイロコノマチョウの暮らし

ウスイロコノマチョウ

タテハチョウ科 奄美以南の南西諸島、東洋熱帯、アフリカに分布

翅の大きさは35mmとわりに大きいチョウ。成虫は周年観察され、秋に個体数が増える傾向にある。

卵は食草のイネ科葉裏に数個ずつ産み付けられる。孵化した幼虫は、しばらく集団でいるが成長するにつれて解散し、単独になる。頭部に1対の角があり、体は緑色で植物の色と溶け込み見つけるのが難しい。たいてい、葉裏にすることが多い。蛹化は葉裏で行われ垂蛹になり、黄緑色とやはり探しにくい。

成虫は他のチョウが昼間を中心に活動するの比べ、曇りや早朝、日没前と暗いときに活発になる。日中は森の中で休んでいることが多い。訪花することもあるが、果実が完熟し、発酵したら吸汁に来る。また樹木の幹に樹液がでて発酵すると、やはり吸汁にくる。

夏を中心とした個体の翅裏は波模様で蛇の目模様があるが、日が短くなり気温が下がってくると翅裏は枯葉模様になる。秋型と呼び、夏型に比べより枯葉に紛れてしまい、見つけにくい。



若令幼虫



終令幼虫



草の色に同化した蛹



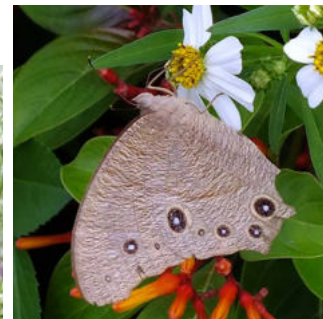
夏型は蛇の目模様



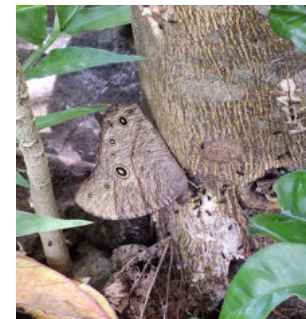
秋型は枯葉模様



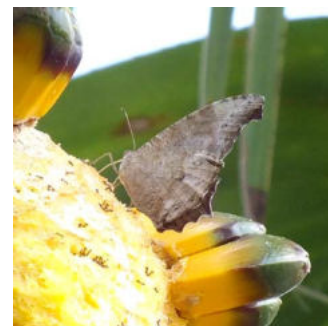
ツルヒヨドリに訪花



サシグサに訪花



シークワサーの樹液吸汁



ビョウタコノキ果実吸汁



グワバ実吸汁



ドラゴンフルーツ実吸汁

浦添大公園ニュースレター **うらしー** 2023年12月号

浦添大公園管理事務所 〒901-2103 沖縄県浦添市仲間2-53
TEL (098) 873-0700 FAX (098) 873-0714 <https://urasoedaipark-osi.jp>

指定管理者 沖縄文化スポーツイノベーション株式会社[タピックグループ] 編集・発行:比嘉正一